

# 高松市内埋蔵文化財試掘調査概報

(平成3年度, 4年度)

1993.3

高松市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、高松市教育委員会が平成3年度、4年度に国庫補助及び県費補助を得て行った高松市内埋蔵文化財の試掘調査概要報告書である。
2. 調査に際しては、香川県教育委員会文化行政課の指導を得た。
3. 本文頁は通し番号としたが、挿図版番号、写真番号等は遺跡ごとに付した。
4. 遺跡の配列は、平成3年度に行ったものから配列したが、3、4年度にわけて行ったものは、3年度に含めてまとめた。
5. 遺跡の位置については、建設省国土地理院発行の25,000分の1の地形図を使用した。
6. 執筆は、1、2、3を末光甲正、4、6を山本英之、5を山元敏裕、7、8を中西克也が行い、全体編集を担当者協議の上、山元が行った。

## 目 次

1. 石舟池古墳群	1
2. 勝賀庵寺	6
3. 史跡天然記念物屋島（市道山の手線試掘調査）	9
4. 松縄下所遺跡	11
5. 伏石・鹿腹遺跡	15
6. 伏石キモンドー遺跡	17
7. 史跡天然記念物屋島（四国民家博物館醤油蔵取蔵庫）	21
8. 境目下西原遺跡	23



平成3・4年度 試掘調査遺跡位置図

# 1 石舟池古墳群

1. 所在地 高松市三谷町2708番地
2. 調査期間 平成3年11月6日～12月18日  
平成4年11月10日～平成5年2月25日
3. 調査面積 約220㎡／約150㎡
4. 調査の概要

三谷土地改良区による「ため池等整備事業（小規模）石舟池計画」工事（平成元年度から5ヶ年計画）施工中の石舟池で、堤体内に古墳らしい石材があると通報があり、立会調査の結果、横穴式石室が検出された。

調査の結果、主体部（横穴式石室）の概要を把握できるもの2基（2，3号墳）、石室の一部を残すが、規模・構造は推定の域を出ないもの2基（4，5号墳）のほか、攪乱で原位置を確認できないが、側壁と見られる塊石や安山岩板石に須恵器片を伴うもの（7，9号墳跡）、墳丘盛土断面、裾部が確認できるもの（6，8，10号墳）等、計9基の古墳の存在を確認した。

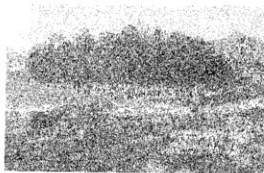
また、地山を僅かに掘り込み、列石で囲んだ13～4世紀と見られる貯水施設の一部を検出した。あわせて、三谷石舟古墳裾部の試掘調査を実施したが、ヘドロに混在する安山岩板石（基壇周縁の外護列石あるいは石積み材）以外に遺物・遺構はなく、地元で礫土（れきど）とよぶ土層の地山（層厚1m内外、下層は三疊層）の緩斜面のみがみられた。

## (1) 古墳群の概要

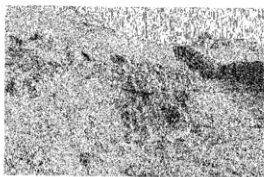
今回調査にかかる9基の他、石舟池1号石棺（平成元年11～12月緊急調査、箱式石棺）、石舟池1号墳（平成3年1月緊急調査、竪穴式石室墳）の所在が確認されており、三谷石舟古墳をあわせて北東に伸びる丘陵端とその支脈上に位置した、11基以上の古墳群である。



第1図 遺跡の位置



第2図 石舟池全景



第3図 堤防掘削状況

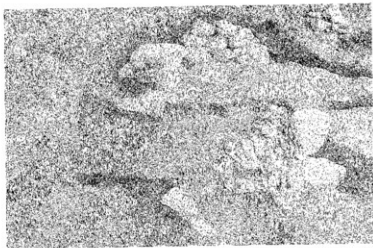
堤防外周に接して塚1基が認められ、過去に、民家への道路取付けに際し安山岩板石の石積みが露出したとの報告もあるなど、堤防内外になお多数の遺構が存在するものと推定される。

調査時所見で、石舟池は谷の閉塞に古墳石材を転用、墳丘間の凹地に盛土して堤防を築造し、さらに2回以上の修築・嵩上げを経て、古墳群が現況の直線状堤防内に取込まれたと考えられる。確認された9基は、径5～9mの盛土円墳であり、すべてが破壊を受けて、残存状況はよくない。いずれも、床面に安山岩板石を敷き詰めた横穴式石室の構造に、地域的特徴がみられる。

(2) 各古墳の概要

- a 2号墳 南南西に開口する幅1.2m、長さ2.6m以上の横穴式石室をもつ。三段まで残る石室は、奥壁・側壁に安山岩質凝灰岩塊石（目山石か？割石を含む）小口積み（一部横口積み）にして構築する。第1次埋葬床面は安山岩板石を二重に敷き、第2次床面は人頭大の塊石を並べる。

第4図 2号墳石室



第5図 2号墳石室  
掘堀出土状況



なお、第1次床面と板石間に、数点の埴輪片が認められた。おそらく石舟古墳を含む付近の古墳石材が転用され、同時に埴輪片も混入したものであろう。

出土遺物は、埴輪片のほか須恵器提瓶1、同杯蓋片2、同台付壺脚部片1、鉄製刀子2、鉄鏃2、ガラス円玉1（紺色）、ガラス小玉（空色）1である。

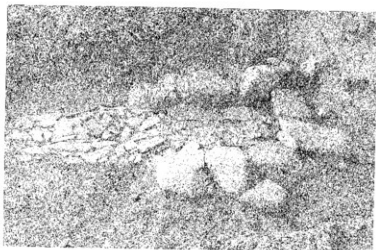
- b 3号墳 南南西に開口する幅0.8 m、長さ2.2 m以上の横穴式石室（無袖か）。奥壁・側壁一段を残し、2号墳同様の塊石（割石を含む）を使用。床面は安山岩板石を二重に敷く。

出土遺物は、須恵器提瓶、同杯身片、同杯蓋片、同壺片各1である。

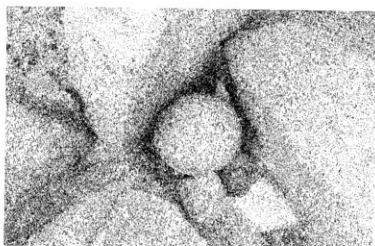
- c 4号墳 攪乱が激しく、抜取跡による推定で南南西に開口する幅1 m、長さ2.8 m以上、3種類の異質の塊石を混用した横穴式石室をもつ。床面に安山岩板石が散在する。

出土遺物は、須恵器短頸壺2、同短頸壺蓋2、同杯身1、同杯蓋1、同高杯脚部1である。

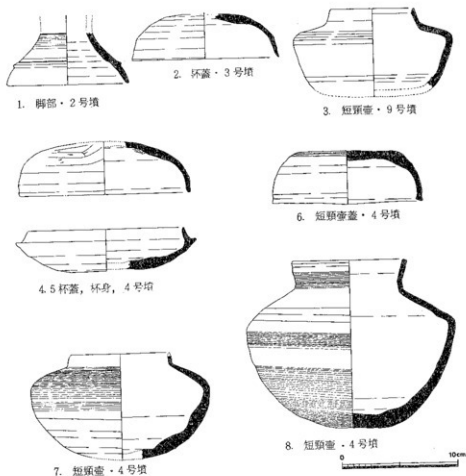
第6図 3号墳石室



第7図 3号墳石室  
提瓶出土状況



- d 5号墳 幅0.9m以上、長さ不明の南南西に開口する横穴式石室をもつ。石材の使い方は2、3号墳と同様であり、一段の奥壁と床面の一部のみが残存する。
- e 6号墳 墳丘裾部のみ検出。土師器片1、須恵器杯蓋片1が出土。
- f 7号墳跡 塊石、安山岩板石がまとまって出土。
- g 8号墳 墳丘裾部のみ検出。
- h 9号墳跡 塊石(割石を含む)、安山岩板石とともに、須恵器短頸壺1、同破片1、同杯身1、鉄製鋤先片1が出土。
- i 10号墳 墳丘裾部のみ検出。



第8図 石舟古墳群出土須恵器

### (3) 石列遺構について

1号樋管(ユル、池北西隅)工事の際、貯水施設と見られる石列の一部が発出された。堤防築造以前のものであり、旧地形は古墳群の立地する丘陵支脈間の谷に当たる。安山岩系(由良石か)の入頭大垂角礫1~2段、2m以上の石列がやや不整な弧状にのびるもので、弧の内側の地山は深さ約15cmの浅い皿状に掘りくぼめられている。周辺地山面から土師器杯2、布目瓦片1、須恵器小片等が出土している。

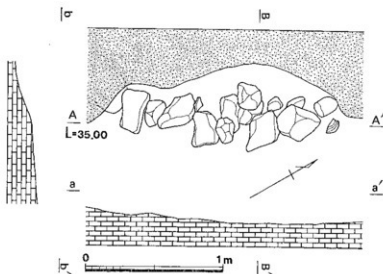
日常生活用水にあてられた施設と考えられる。

### 5. まとめ

- ①古墳の築造時期については、出土遺物等から6世紀末~7世紀前半と推定される。
- ②古墳相互の間隔が狭く、墳裾が重複または接したもあり非常に密集した群集墳である。
- ③横穴式石室は、すべて奥壁、側壁にはほぼ同等の大きさの塊石を使用し、床面に安山岩板石を敷き並べている。特に2号墳と3号墳では、二重に敷きつめており、昭和61年度に調査した西方約1mに位置する平石上2号墳は、より大規模な石室、石材をもつ古墳であるが、石材とその使用方法が類似しており、当地における横穴式石室の地域的特徴を示すものと考えられる。
- ④土層からみて、当初の池は丘陵支脈間の谷に盛土をしたため、古墳裾まで湛水した可能性が考えられる。そして少なくとも2回の改修・嵩上げがあり、11基以上の古墳を削平し、その墳丘盛土や石材を閉塞・護岸等に充用して施工された可能性が大きい。

⑤今回調査を含む一連の調査で、三谷石舟古墳に近接する古墳群の所在が知られた。古墳時代後・終末期にかけ、同古墳の系譜に連なる可能性のある在地勢力が形成した群集墳であろう。

周辺一带には、塚跡須恵器片、安山岩板石片等がみられ、副葬品らしい遺物の出土も伝えられる。古墳群はさらに広範囲なものであったと考えられる。



第9図 石列遺構(貯水施設)



## 2 勝賀麁寺

1. 所在地 高松市香西北町奥ノ堂池
2. 調査期間 平成4年2月10日～3月11日
3. 調査面積 約100㎡
4. 調査の概要

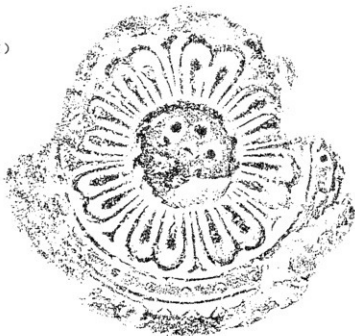
「奥ノ堂池堤防改修工事」に先立ち、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地勝賀麁寺にあたるため、改修予定部分の堤防内側斜面から池底にのびる幅1mのトレンチ4本を設定して試験掘調査を行った。

調査結果から、地山の上に布目瓦片を僅かに含むヘドロが堆積しており、池敷内の遺構

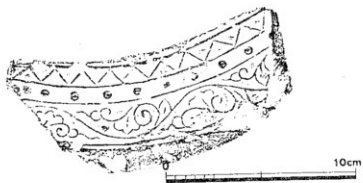


第1図 遺跡の位置

第2図 新池軒丸瓦  
(岡稲雄氏旧蔵)



第3図 奥ノ堂池軒平瓦



は、過去の改修・浚渫等によりすでに削除されたものと判断される。また、ユル部分開削工事中の立会調査時に、ほぼ現池底面に相当するレベルで、30cm立方前後の割石を南北方向2m弱、二段に積む石組がみられた。寺院の遺構ではなく、ユルに関連するものと推定される。

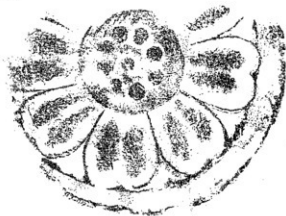
堤防及び周辺の表面採集が大半を占める遺物は、8コンテナ分の瓦の他、須恵器片、土師器片、サヌカイト片若干と石礫1点である。なお、北方(下流側)100m内外に位置する新池内にも軒瓦(岡福雄氏採集)を含む瓦片、須恵器片の散布が顕著である。

#### 5. まとめ

寺院遺構は、過去の堤防工事により破壊され、その際、瓦等の遺物が盛土内外に混入している。付近の地形・聞き取り調査・表採資料等から、寺院の中心域は調査地北東部分ではないかと推定される。採集・出土した瓦から、白鳳～平安時代の時期が想定される。

なお、故小竹一郎氏資料に、坂田庵寺に同範と思われるものがあることが判明した。

第4図 奥ノ堂池軒丸瓦  
(昭和9年小竹一郎氏拓)



第5図 奥ノ堂池軒平瓦





第6図 新池軒平瓦



第7図 奥ノ堂池軒平瓦



第8図 奥ノ堂池軒平瓦



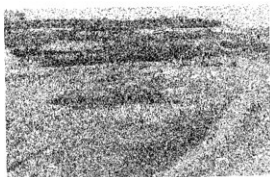
第9図 奥ノ堂池軒丸瓦  
(昭和9年 小竹一郎氏拓)



第10図 新池軒丸瓦 (岡福雄氏旧蔵)



第11図 坂田廣寺軒丸瓦  
(昭和9年 小竹一郎氏拓)



第12図 奥ノ堂池全景

### 3 史跡天然記念物屋島（市道山の手線試掘調査）

1. 所在地 高松市屋島中町東山地
2. 調査期間 平成4年3月16日～3月30日
3. 調査面積 約200㎡
4. 調査の概要

屋島中町東山地（ひがしやまじ）地内、市道山の手線拡幅・改修工事に先立ち、試掘調査を実施したものである。

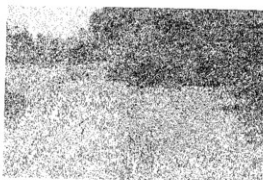
現況は果樹（柑橘・桃）園であるが、昭和初期まで道路山側一帯に水田があり、民家も点在した場所である。

果樹園地の市道沿いに、幅1mのトレンチを、東から西へⅠ～Ⅳ区にわけて設定。

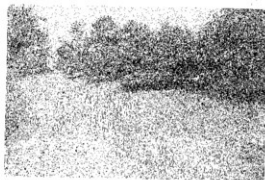
Ⅰ区では南へ傾斜する粗砂層にのる30～50cm厚の黒色土層に寛永通宝2点、染付磁器片等、Ⅱ～Ⅳ区では地表下数10cmで、堅緻な砂質土層またはこぶし大の垂円礫を主とする礫層となる。



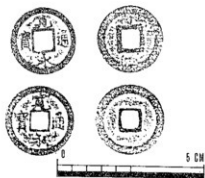
第1図 遺跡の位置



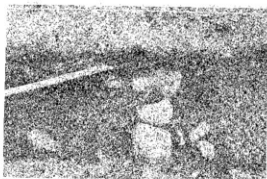
第2図 Ⅲ、Ⅳ区（調査前）



第3図 Ⅴ、Ⅵ区（調査前）



第4図 Ⅰ区出土銭貨拓本



第5図 Ⅳ区石組（近世石垣残石）

トレンチⅥで近世末の石組(トレンチに直交する。延長部分に、崩壊しかかっているが、現に使用中の石垣がある。)

トレンチⅦ、Ⅷで近代遺物を伴う土坑、ピットがみられた。

なお、周辺の分布調査で、石厨子をもつ塚2基、調査地の山側(北)約100mの、南東に開けた斜面の標高40~50m付近に、塚跡、横穴式石室墳2基以上(昭和52年『全国遺跡地図(香川県)』には未収、東山地2号墳を含む)等の現存を確認した。

#### 5. まとめ

聞取調査の内容からみて、トレンチⅦ、Ⅷの土坑は、果樹移植痕の可能性が高い。

その他の調査区では、近世から近代の遺物が散見されるが、特段の遺構は確認されなかった。

道路改修予定地の範囲内には、遺構が存在する可能性は少ないと考えられる。

但し、道路改修予定地に近接する周辺一帯は、古墳群及び塚群や、五輪塔も現存する現用の墓地等があり、近代以前には民家・水田等も立地していたと想定される。

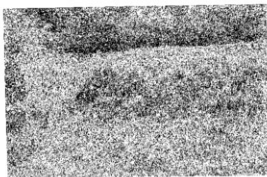
これらの点からみて、周辺一帯の斜面には、古墳・墳墓跡、住居跡、生産遺構等が分布するものと推定される。



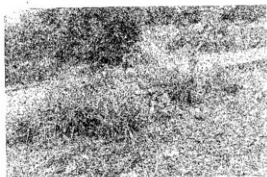
第6図 東山地2号墳



第7図 東山地2号墳石室開口状況



第8図 調査地北側斜面の塚跡



第9図 !区西側に隣接した塚

## 4 松縄下所遺跡

1. 所在地 高松市松縄町
2. 調査期間 平成3年9月6日～12月11日  
平成4年9月29～30日
3. 調査面積 約425㎡
4. 調査の概要

都市計画道路福岡一多肥上線及び木太一鬼無線築造に先立ち、試掘トレンチによる土層観察を行った。試掘調査は区画整理事業の仮換地指定の進行につれて順次実施したため、調査時期は平成2年度から4年度の3次に分けて実施している。平成2・3年度に試掘調査を実施した箇所についてはすでに発掘調査を終了しており、平成5年度から整理作業に着手予定である。ここでは、平成3・4年度に行った確認調査の結果について報告するものである。



第1図 遺跡の位置

### (1) 平成3年度の調査

都市計画道路福岡・多肥上線の木太・鬼無線との交差点を挟んで南北100m、木太・鬼無線の交差点から東側で東西40mについて実施した。配置図中の第1～4トレンチである。

第1～3トレンチについてはいずれも耕作土直下で灰色の砂礫を検出し、微高地に当たる部分と考えられる。第1トレンチで須恵器片と石鏝を採集しているが、遺構は確認されていない。

第4トレンチは、第1～3トレンチに比べて50cm強の比高差をもって低くなっており、耕作土と砂礫層の間に灰褐色シルト質極細砂の水田層が確認できた。遺物は採集されていない。

### (2) 平成4年度の調査

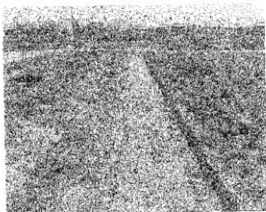
調査範囲は第5トレンチで、東西延長85mを測り、東側は平成4年度に調査を実施した松縄下所遺跡第3調査区に接する。標高は現耕作土除去後の地盤高で7～7.1mを測り、東端がわずかに高いものの全体としてはほぼ平坦である。確認作業は側溝壁面の分層と、要所の土層略図および写真撮影によって行った。水平距離は側溝東端を起点として任意に設定した。

土層は、隣接する松縄下所遺跡第3調査区で水田層の下層にあった和泉砂岩風化礫を多量に含む黒褐色～暗褐色の砂礫層が、現耕作土直下付近まで上昇し、水田層は確認できなかった。そしてトレンチ中央部付近から西半は、幅約35mにわたって砂礫層を切り込む形で灰黄色の砂質シルト～細砂層が確認された。シルト層はもっとも層厚が厚い部分で約50cmを測り、表層部に土壌化を示す黒褐色の砂質シルト層が部分的にみられるが、遺構として形のままだったものはみられず、遺物も確認されていない。

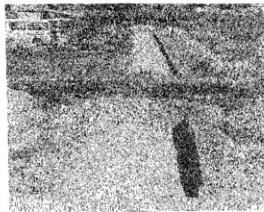
微地形分類図によると地形的には埋設旧河道上にあたるが、土層からは洪水の及んだ形跡はあるものの、旧河道の痕跡はみられない。一方、古墳時代初頭の旧河道は試掘地点から東へ約50mに復元されていることから、微高地上に洪水が及んだための地形変化であると考えられる。

## 5. まとめ

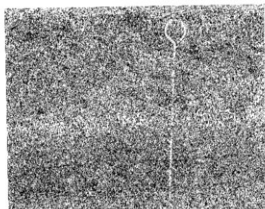
以上の確認調査の結果、第4トレンチで水田層を確認でき、遺跡範囲として把握できた他は、目立った結果は得られなかった。しかし、1～3トレンチは、沼岡多肥上線予定地を南から伸びてくる道路上遺構の延伸部に当たっていることから、大事をとって遺跡範囲に含め、発掘調査を実施した。



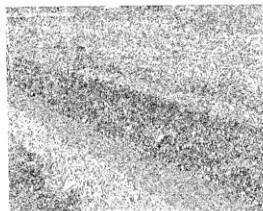
第1トレンチ完掘全景



第2トレンチ完掘全景



第3トレンチ土層断面



第5トレンチ土層断面



第2図 松橋下所遺跡試掘トレンチ配置図



## 5 伏石・鹿腹遺跡

1. 所在地 高松市伏石町
2. 調査期間 平成4月20日～21日
3. 調査面積 20㎡
4. 調査の概要

都市計画道路朝日町一仏生山線築造工事に先立って試掘調査を実施した。調査地は、高松地方気象台の北東方向にあたり、道路予定地の両側に2本のトレンチを設定して遺構の確認を行った。調査区の基本層序は、現耕作土、床土、灰色砂礫となり、この面が遺構面となる。確認した遺構は、西側のトレンチの南端において幅0.3m、深さ0.1mの南にむいて落ちこむ包含層を確認した。一方、東側のトレンチの南端において南西から北東方向の溝状遺構を1条確認した。確認した溝状遺構の規模は、推定最大幅約8m、深さ0.7mを測り、溝の中心部約2.5mがU字状を呈し深くなる。溝状遺構の埋土は、黒色シルトで充填されている。出土遺物は、弥生土器と考えられる砂粒の多い土器片を数片確認した。



第1図 遺跡の位置



第2図 調査区トレンチ配置図

## 5. まとめ

当初、予定していた範囲の南半分が試掘できていないが、東側のトレンチで確認した溝状遺構は、規模もしっかりしたものであり、しかも溝状遺構の方向からすれば、今回試掘ができていない南半分に伸びていることは確実であり、西側のトレンチで確認した包含層についても南側に広がっていることから、南側に、遺構が広がっている可能性が高い。最終的には、南半分の試掘状況をまけて判断したい。

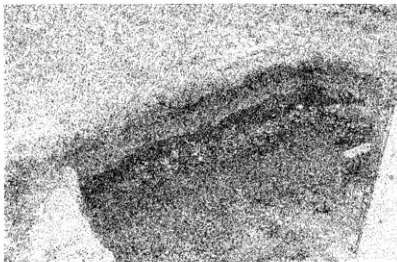


写真1  
西側トレンチ  
土層堆積状況

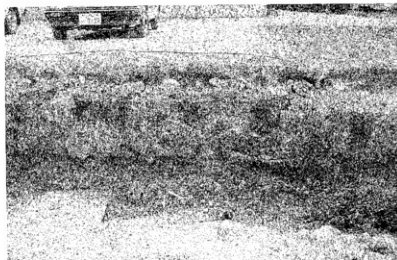


写真2  
東側トレンチ  
土層堆積状況

## 6 伏石町キモンドー遺跡 (佐藤城推定地)

1. 所在地 高松市伏石町
2. 調査期間 平成4年9月25日～11月5日
3. 調査面積 約700㎡
4. 調査の概要

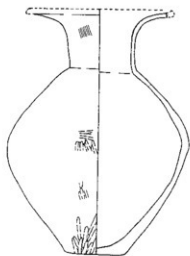
都市計画道路朝日町一仏生山線築造工事に先立ち試掘調査を行った。調査は用地取得の状況にしたがって3次に渡って実施したが、トレンチ番号は南から順番に第1～6トレンチとした。蓮池の西側堤防裾から北に約250mに及ぶ範囲、昭和61年度の分布調査時には弥生時代から古墳時代にかけての遺物の散布がみられた。調査範囲内には戦国時代の館跡である佐藤城の推定地も含まれており、推定地東北隅の地点には現在でも“キモンドさん”と呼ばれる石塔が祭られている。

第1～3トレンチは、灰色砂礫ベースの上層に部分的に黄灰色の細砂～砂質シルトが覆った微高地で、この上面に遺構面が形成されている。第2トレンチと第3トレンチの南端では東へ落ちていくと思われる旧河道の落ち方を検出している。しかし、水田層、遺物は確認できていない。遺構では、第1トレンチで土層壁面に堅穴住居状の落ち込み1、溝状の落ち込み3、ピット1が確認され、ピットからは弥生後期頃の壺の胴部がほぼ一箇体分出土している。また、側溝北端では灰色砂礫ベースを垂直に掘り込む落ち込みが、南北幅30mにわたって確認できた。落ち込みは、上層が黒色と灰色シルトのブロック状混交土層で、埋土から中近世以降の人為的な埋土、下層は黒色と灰色のシルトが互層になっており、河川堆積層であると考えられる。第3トレンチでは、黄褐色砂礫ベースの微高地上に東西流する数本の溝状遺構と性格不明の落ち込みが数カ所見られた。

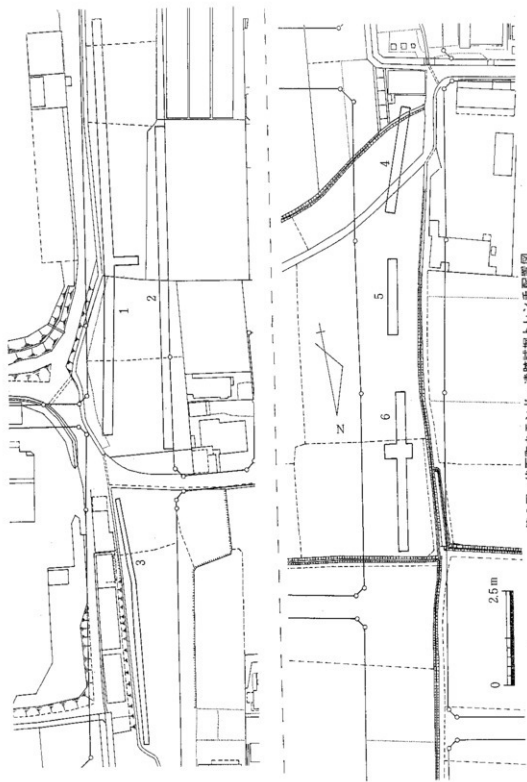
“キモンドさん”の北側に位置する第4トレンチでは南西～北東に幅約15mの旧河道が走っており、堆積内には弥生時代後期の土器片が濃密に含まれている。また、旧河道の北側に当たる第5・6では、黄褐色細砂礫層の不安定な遺構面上に数個のピットが確認でき、少なくとも1棟の掘立柱建物が復元できる。



第1図 遺跡の位置



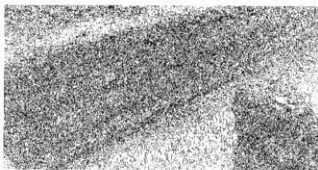
第2図 伏石キモンド遺跡  
出土土器実測図  
(縮尺1/4)



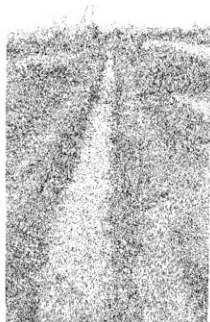
第3図 伏石町キモンドー遺跡試掘トレンチ配置図

## 5. まとめ

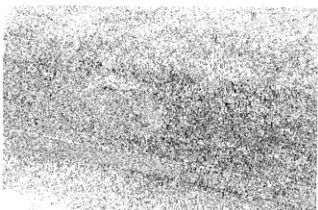
以上の結果、第1・第2トレンチの微高地上には弥生時代後期頃の集落跡の存在が確認できた。また、北側の大規模な落ち込みは佐藤城跡と関連する遺構の可能性があり、現地形に残る1町方格の地割りや第2・3トレンチで確認できた旧河道とも考え合わせると、東側の河川を掘り割りに利用した居館の様子が想像できる。一方、第4トレンチ旧河道、第5・6トレンチ微高地上にも遺物及び遺構の存在を推定できる。よって全域にわたって工事に先立つ事前の発掘調査が必要であると考えられ、当該区域の区画整理事業を主管する太田第2土地区画整理事務所とも、平成5年度以降、本調査実施の方向で協議中である。



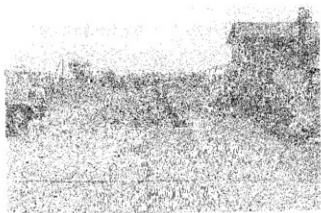
第1トレンチ土層断面



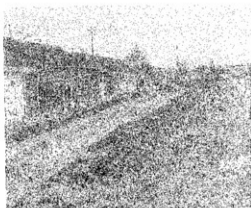
第1トレンチ完掘全景



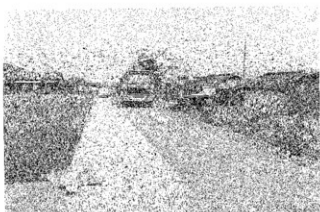
第2トレンチ土層断面



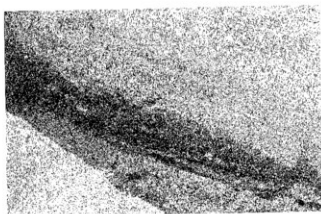
第2トレンチ全景(調査終了後)



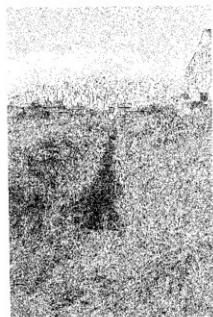
第3トレンチ完掘全景



第3トレンチ重機稼働状況



第4トレンチ土層断面



第5トレンチ完掘全景

## 7 史跡天然記念物屋島（四国民家博物館醤油蔵収蔵庫）

1. 所在地 高松市屋島東町
2. 調査期間 平成4年12月16～18日
3. 調査面積 45㎡
4. 調査の概要

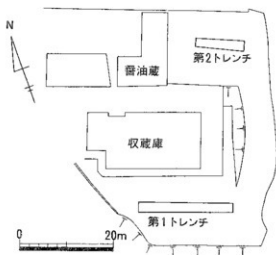
屋島は全域にわたって国の史跡となっており、香川県を代表する文化財であり観光地である。その登山道の入口にある四国民家博物館は、四国各地の重要な民家や建物を移築復元し、貴重な民俗資料を所蔵している。そのうち、重要有形民俗文化財の指定を受けている讃岐及び周辺地域の醤油醸造用具と醤油蔵および猪室の資料を収蔵するため、既設の収蔵庫を国庫補助事業により拡張することとなった。

拡張工事に先だって建設予定地の埋蔵文化財の包蔵状況を確認するため、12月16日から18日まで試掘調査を実施した。

調査地点は四国民家博物館の収蔵庫の東側に位置し、屋島の南斜面の裾部近くであり、緩やかな傾斜となっている。調査区はコの字状になっており、約3mの比高差を有する上下二段となっている。その段を結ぶ中央部の道路となっている部分は盛土であるので、調査は行わないこととした。このため調査区は二つに別れることになった。まず、収蔵庫の南側を第1地点とし、その上方にある醤油蔵の東側を第2地点とする。



第1図 遺跡の位置



第2図 トレンチ配置図



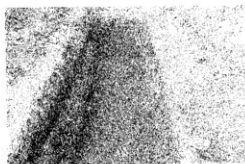
第3図 第2トレンチ土層模式図

第1地点は中央に東西方向のトレンチを任意に設定し、それを第1トレンチとした。長さは20m、幅は1.5mである。現地表面から約15cm掘ると地山となり、土層は暗灰褐色土の単一層である。壁には遺構の掘り込みはなく、地山は東方向にやや下がっているが、遺構はまったく検出されなかった。出土遺物もまったく無い。

第2地点は中央やや北側に東西方向のトレンチを任意に設定し、第2トレンチとした。長さ10m、幅1.5mである。その土層堆積は第3図のとおりである。現表土から約120cm下までは攪乱層であり、恐らく最近盛土されたものであろう。本来の堆積を示す暗灰褐色土はその下に約40cmの厚さであり、ラミナ状堆積を呈し隙を若干含んでいる。地山は現表上下約160cmの深さであり、やや凹凸があり南側に少し下がっているが、遺構の検出は確認されなかった。同様に壁面においても遺構・遺物は認められなかった。

#### 5. まとめ

調査の結果、第1・2トレンチにおいて遺構・遺物はまったく検出されておらず、取蔵庫拡張工事に関しては、埋蔵文化財保護上支障がないと考えられる。しかし、今回調査を実施した地域を含める屋島全域は文化財保護法により保護されており、また周知の文化財以外にも埋蔵文化財の所在する可能性がある。





## 8 境目・下西原遺跡

1. 所在地 高松市松岡町境目
2. 調査期間 平成5年2月10日～26日
3. 調査面積 415㎡
4. 調査の概要

都市計画道木太・鬼無線建設に先立って試掘調査を実施した。調査は建設予定地のうち木太中学校(旧ガラ池)の北側から平成4年に調査した松岡下所遺跡にかけての総延長350m、道路幅20m、工事面積7,000㎡を対象とし、同予定地内に10ヶ所のトレンチを設定した。トレンチは幅約2m、総延長207mである。トレンチの番号は調査を実施した毎に第1.2……9.10.トレンチとした。試掘調査の結果を記述するに際し、調査区全体にわたる遺構の検出、微地形の復元を明確に表すために西側のトレンチから東側に向かって順次その詳細を述べることにする。

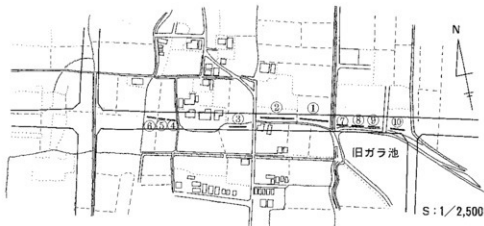
第4～6トレンチは調査区の西端にあり、明確な遺構は検出されなかったが、第6トレンチにおいて西端で南北方向に延びる幅約5.5mの旧河道状の落ち込みが確認された。確認面からの深さは約50cmであり、埋土からの遺物の出土はないが数面の土壌層が見られる。第4・5トレンチでは東側に向かって灰色砂礫層が緩やかに上がっている。

第3トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。

第2トレンチの土層堆積は現水田・近世の灰白色シルト質細砂であり、ベースは以西の第3～6トレンチとは異なり黄褐色砂質シルトとなっており、東側に緩やかに上がっている。検出された遺



第1図 遺跡の位置

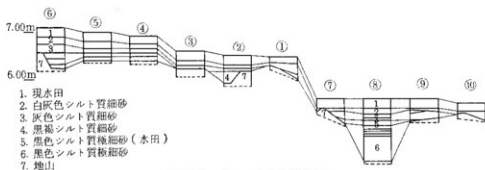


第2図 トレンチ配置図

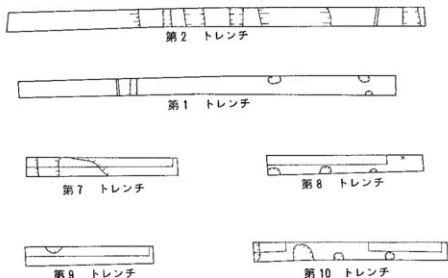
溝は南北方向の溝6と旧河道状落ち込みである。溝の幅は0.2～7mを測り、最も幅の広い溝の深さは約40cmであり、弥生時代後期の土器が出土した。溝の埋土はすべて黒褐色シルト質細砂であり弥生時代の遺構であると考えられる。トレンチ西端で検出された落ち込みは底面までの深さが現水田下約90cmを測り、埋土は黒褐色シルト質極細砂であり西端でやや上り気味である。弥生土器が若干出土している。

第1トレンチでは現水田直下にベースとなっており、土坑3、溝2が検出された。土坑の埋土は黒褐色土であり、上面での径は約50cm、深さは40cm以上である。サンクラックを受けている。溝は暗褐色土で深さ20cmを測る。全ての遺構から遺物は出土していない。トレンチ東端においてベースが下がっておりグライ化している。

第7トレンチの現水田は第1トレンチと比べて約40cmくらい低くなっている。近世の土坑1、溝1が検出された。溝はトレンチの西端にありグライ化している。条理地割りの郡界線に関係するのかもしれない。ベースは中央やや西寄りで現水田直下まで上がっているが、両側に緩やかに下がり、



第3図 トレンチ土層柱状図



第4図 遺構配置図

西側ではグライ化しており第1トレンチ東端と同様な状態である。緩やかに下がる東側には黒色シルト質細砂の水田層がある。

第8トレンチでは現水田下で遺構として近世の土坑3が検出された。第7トレンチ東側で次第に下がっていたベースは急激に落ち込んでおり、最深部では現水田から約1.4mの深さを測る。埋土は7層以上堆積しており、その中に少なくとも4面の水田の存在が確認されている。最上の水田は暗灰色シルト質細砂であり、東側に厚くなり須恵器の壺の破片が集中して出土した。その下の水田は黒色シルト質極細砂であり、最も明瞭な水田である。この水田の非土壌層は白灰色砂層であり直下の水田を覆っている。最下位の水田は黒灰色シルト質細砂であり白灰色砂層の上につくられている。黒色シルト質極細砂が底面上50cm位堆積し、非常に粘性がありグライ化している。遺物の出土はなかった。ベースは砂礫となっている。

第9トレンチでは黒褐色土の土坑1が検出された。第8トレンチにおいて急激に下がっていた白黄色シルトが再び上がってきて現水田より40cmの深さとなる。近世の水田層の下に砂礫層と白灰色砂層が厚く堆積しており洪水があったと考えられる。

第10トレンチでは近世土坑4を検出した。ベースは次第に高くなりほぼ現水田直下まで達しているが、東端になるとやや下がっている。

## 5. まとめ

今回の試掘調査により調査区内の遺構の有無と密度、微地形の復元を明確にすることができた。すなわち、調査区西側は砂礫層をベースとし、それを攪り込む旧河道状の浅い落ち込みが2ヶ所あり、その東側の調査区中央部は白黄色シルトがベースとなり微高地上に弥生時代の溝が集中して検出された。調査区東側では現水田面が一段低くなっておりその直下でベースとなっている。第8トレンチを中心として狭い範囲ながら急激に落ち込みがあり、その中に4面以上の水田が存在している。このように調査区全域にわたり遺構が検出されており、広範囲な遺跡であると考えられる。さらに、第1トレンチと第7トレンチの間にある水路は、糸里プランの復元では山田・香川郡の郡界線に当たり、糸里地割の研究にとって非常に重要である。

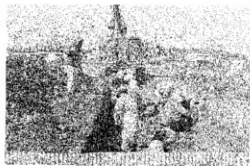


写真1 調査風景

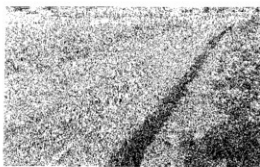


写真2 第1トレンチ完掘状況

高松市内埋蔵文化財試掘調査概報

(平成3年度・4年度)

平成5年3月31日発行

編集・発行 高松市教育委員会  
高松市番町1丁目8番15号  
電話(0878)39-2636

印刷 若葉プリント